

30年中間貯蔵施設地権者会会長 門馬好春さんのほなし

地域や国民の安心安全を最優先に考えて

双葉郡大熊町と双葉町にまたがる中間貯蔵施設に、除染で出た汚染土などが運び込まれ始めて、三月で十年になる。搬入開始の四月ほど前に「30年中間貯蔵施設地権者会」が発足し、定期的に環境省から説明を受けながら意見交換するなどして、三十年となる二〇四五年三月までに、汚染土などを福島県外の最終処分場に運び終える約束を守らせようとしている。会長の門馬好春さん(67)に自身のことや故郷への思い、中間貯蔵施設に対する考えを聞いた。

私は大熊町天沢長者原で生まれ育ちました。実家から福島第一原発までは約200m、ほんとうに近く、見たくなくても原発が見えました。両親が農業をしながら勤めに出ていた兼業農家の家庭で、きょうだいはいは姉、兄が一人ずつ、私が一番下です。

幼いころにはまだ、原発はありませんでした。だんだん「原発ができる」と聞くようになり、小学四年生のころに建設が始まりました。子どもの感覚でもあの辺り一帯は貧しく、冬になると農家は東京方面に出稼ぎに行きました。

私の父も出稼ぎに行っていましたから、単純に原発ができれば働け口もできて、冬でもみんなで飯が食べられ、その意味で「原発ができることは、いいことなんだ」と思っていました。中学、高校時代は私も原発敷地内の除草のアルバイトをしました。

原発の建設とともに水道が整備されるなど、町全体が経済的に豊かになってきた感じがしました。でも、いま振り返ると、その豊かさは本当の豊かさではありませんでした。それまで食べられなかった物が食べられるようになったというように、物質的な欲求を満たしただけです。

私は熊町小学校で学び、熊町中学校では最後の卒業生で、そのあと熊町中は大野中と統合して大熊中になりました。昭和四十八年春です。その年に双葉高校に入学しました。一昨年、双葉高校は創立百周年を迎えました。その際、五十年前、

私が高校一年生の秋に発行された新聞部の「双高新聞」(創立五十周年記念式典に合わせて制作された四ページの新聞)が話題になりました。

そこには「原子力の安全性を問う」という特集があり、住民の意識調査と安全性に関する専門家のインタビューが掲載されていました。しかし記念式典の当日、新聞の配布を止める声があり、式典では配られませんでした。同級生や先輩があつた時代にこのような新聞を作っていたのですから、私も原発の危険性をもっと勉強しておけばよかったと思っています。

高校を卒業後、東京で就職し、二十五歳の時、結婚を機に大熊に戻ってきましたが、五歳下の妻の具合が悪くなり、東京の大学病院でないと治療が難しいということ、三十歳の時に再び東京に出て、以来、東京で暮らしています。妻は十年前、五十三歳で亡くなりました。私の母が他界したのと同じ年齢でした。

二〇一一年に震災・原発事故が起き、双葉町に住んでいた姉、家を継いだ兄と連絡が取れたのは、四、五日経ってからです。いま姉は中通り、兄は相馬で暮らしています。実家を初めて訪れたのは三、



四年後だったと思います。家だけじゃなくて周辺すべてががらんとして、時間が止まっているようでした。

事故から二年ほど過ぎたころ、中間貯蔵施設の話が出てきました。親が亡くなった時に、私も田んぼを一枚、約3000㎡を相続しているので、地権者の一人です。

環境省は二〇一三年六月から一年ほどの間に、中間貯蔵施設の建設に向けての住民説明会を十六回開きました。用地補償などをめぐって地元との調整が難航す

50年前の「双高新聞」のこと 原発設置反対が62%



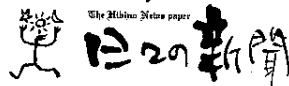
常磐湯本町の古滝屋の九階にある「原子力災害書証館」で門馬好春さんに話を聞いた時、持参していた昭和四十八年(一九七三)秋に発行の双葉高校新聞部の「双高新聞」を見せてもらった。四ページの新聞で、三面がすべて特集「原子力の安全性を問う」で埋まっている。その内容を紹介します。

その新聞が作られた時、福島第一原発は六号機まで建設工事に着手され、一号機はすでに運転が始まっていた。「双高新聞」の特集は地域住民への意識調査と、安全性についての専門家のインタビューが掲載されている。

意識調査では双葉町、大熊町など周辺の約二百世帯にアンケート(設問は四つ)を実施、回収率は87%だった。まず、原発設置に賛成が28%、反対が62%、わからないが10%。賛成理由は「電源資源開発に役立つ」が最も多く60%、逆に反対理由は「安全性に不安」で59%。

古きを訪ねて新しきを知る

いわき Biweekly Review



■新聞1部500円で月1,000円(消費税・配達料込み)
月2回発行 半年6,000円 年間12,000円

■お申し込み方法=日々の新聞社に電話かFAX、メールで「購読希望」と明記し住所、氏名、電話番号、メールアドレスを知らせてください ■お支払い方法=当社では少人数で会社経営に当たっている関係で、購読者の方には郵便振替と銀行口座振込による前払いをお願いします。煩雑な集金業務を省力化し、編集に時間を割くためのシステムですので、ご理解のほどよろしく願います。なお手数料は当社負担とします。郵便振替の用紙は新聞と一緒に届けます。また、銀行口座振込は、東邦銀行谷川瀬支店(普通)358046 日々の新聞社までATMにて108円を引いた額でお振り込みください。 ■お問い合わせ・ご注文=日々の新聞社 〒970-8036 福島県いわき市平谷川瀬一丁目12-9 MAIL:hibi@k3.dion.ne.jp URL: http://www.hibinoshinbun.com/

購読申し込みは
(TEL・FAX) 0246
21-4881

